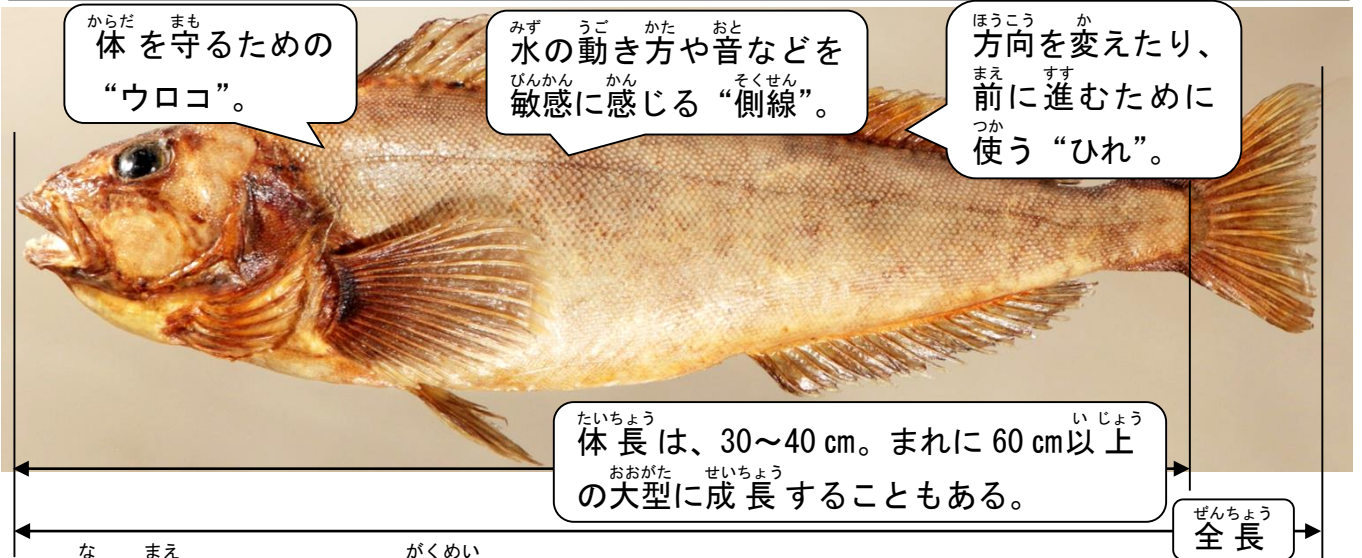


けんぱくものしりシート

アイナメ



からだ まも 体を守るための “ウロコ”。

みず うご かた おと 水の動き方や音などを びんかん かん 敏感に感じる “側線”。

ほうこう か 方向を変えたり、 まえ すす 前に進むために つか 使う “ひれ”。

たいちょう 体長は、30~40 cm。まれに 60 cm 以上 の大型に成長することもある。

ぜんちょう 全長

◆名 前：アイナメ (学名：Hexagrammos otakii Jordan and Starks, 1895)

◆分 類：カサゴ目アイナメ科アイナメ属

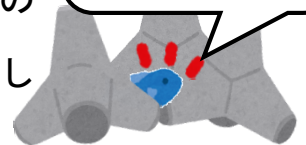
◆生息地：水温が低い場所を好み、南西諸島と太平洋側の一部を除く日本各地の沿岸に生息しています。水深5~50m くらいの、海藻が多い岩礁域や防波堤、波消しブロックなどの陰にかくれています。

◆形・成長：体の真ん中は太く、顔や尾に近づくにつれて細くなっています。卵からふ化したばかりの頃は、岩礁の周りを泳ぎまわります。成長とともに海底に移動し、ふ化して2年目(約27 cm)には産卵できるようになります。

◆食べ物：甲殻類(エビやカニの仲間)、多毛類(イソメやゴカイ)などを食べます。

スタンフォード大学のジョーダン博士が、直弟子である大瀧圭之助の協力を得て、東京の魚市場で手に入れたアイナメを研究し、1895(明治28)年に新種として発表しました。

岩手県の沿岸にも生息しているよ。



平らで細長い姿をしていて、よく釣りエサとして使われています。



◆**変化する体の色**：まわりの環境に合わせて体の色を変えるため、すむ場所によって体の色が異なります（保護色）。繁殖期になるとより多くのメスにアピールするため、オスの体はとても鮮やかな黄色に変わります（婚姻色）。

ちやかっしょく おうかっしょく
茶褐色や黄褐色
おお せきかっしょく
が多く、赤褐色や
むらさきかっしょく
紫褐色をした
なかま
仲間もいるよ。



※1：外敵からかくれたり、獲物を待ち伏せするのに役立つ。
※2：動物が卵や子どもを産み、育てる時期。

◆**子育て**：オスは産卵期（秋～冬）だけ縄張りを持ち、メスを誘います。オスは、卵がふ化するまでの約1か月の間、口やひれを使って新鮮な海水を送って世話をし、外敵や他のオスたちから守ります。

アイナメのオスは、
他のメスが産んだ
卵を好んで食べる
習性があるんだ。



■**豆知識**：

- ①『鮎のように／あゆなみに』縄張りをもつ、がなまって「アイナメ」となり、「鮎並／鮎魚女」などと書くようになったと言われています。
- ②地域によって呼び方がいろいろあります。
→北海道や東北地方では「アブラコ（油子）／アブラメ（油目）」、岩手県や宮城県では「ネウ（根魚）」、秋田県では「シンジョ（寝所）／シジュウ（始終）」など。
- ③江戸時代の殿様も好んで食べていたと言われるほどとても美味しい白身魚です。刺身で食べるとぷりぷりとした食感があり、かむほど口の中に上品な甘みが広がります。

■**資源保護への取り組み**：岩手県では、アイナメの資源保護のために、全長25cm未満のものは再放流する取り組みを行っています。みなさんも全長25cm未満のアイナメを釣った時には、再放流へのご協力をお願いいたします。



参考『全国方言集覧■動植物標準和名⇒方言名検索大辞典
【第1期】北海道／東北[上][下]』太平洋資源開発研究所
2000年／『標準原色図鑑全集／第4巻』株式会社 保育社
1966年／岩手県ホームページ 他

らいげつ がつ
来月（6月）の
けんぱくものしりシートは
たいけんがくしゅうしつ
体験学習室-20だよ！
おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。
※「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。